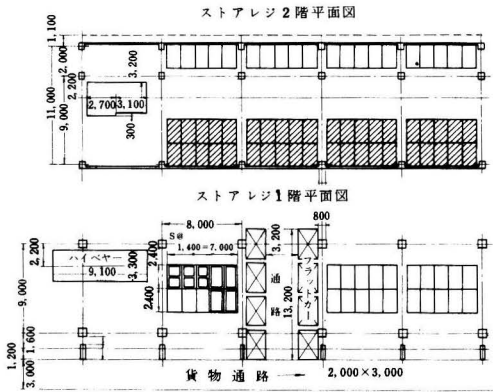


ストアレジハ

ームはスチールホームの2倍の長さがある。)これを受台にもたせ、次にスチールホームはビーム上を滑動して前進させるもので、これによるとインパートのコンクリートも同時に打てる特長がある。

使用するスチールホームの長さは、コンクリート打設後、どのくらいの時間養生を必要とするかにより決まる。スチールホームを撤去した場合、崩落に抵抗するだけアーチが十分な力をうるには 30 kg/cm^2 程度の強度が必要である。一般に打設後15時間程度は存置する必要がある。したがって国鉄のずい道断面では、スチールホームの長さは10m程度のものが多く使われている。重量は単線型で約40t、複線型で約60t程度である。またスキンプレートはスチールホームの重量に大きな影響がある。強度・疲労度・摩耗度等を考慮して厚さ4.5~6mmの高張力鋼板が使用されている。——逆巻。(月岡 照)

ストアレジハウス (英) storage house 貨物駅で貨物を一時保管する貨物取扱設備である。貨車の使用効率と貨物積卸場の回転率を向上するためには、貨物積卸場は、貨物や小運搬具(トラック・オート三輪車等)との荷役作業場として使用されなければならない。



貨物積卸場を本来の荷役作業場として有効に使用するには、到着貨物は、すみやかに到着貨車から貨物積卸場に取り卸し、

貨物を荷受先に搬出されなければならない。また発送貨物は、荷送先から、すみやかに貨物積卸場に搬入され、貨車に積み込まねばならない。しかし一般的に貨物(主として車扱貨物)は、貨車輸送単位に積卸場上に一時集積を行なって、貨車への積込み、あるいは取卸しを行なわねばならない。さらに貨車1車当りの輸送量は、小運搬具輸送量の3~5倍であり、一時集積貨物の搬出、搬入は、必然的に貨物積卸場を滞り場として使用することとなり、荷役作業場である貨物積卸場の機能を阻害することになる。また荷主の都合等によって、貨物の貨物積卸場との搬入、搬入が長時間にわたる場合があり、貨物積卸場上に滞りが生じている。

近年の貨物のユニットロード(unit load)化(パレット、スキッド等の使用)によって、貨物の荷役作業は機械化され、貨物の移動が比較的容易となってきたので、貨物積卸場は滞りを極力少なくし、荷役作業上として有効に使用するのための一つの方法として、貨物の一時集積は、貨物積卸場に近接し、貨物の移動距離の最も少なくなる位置に一時集積場所、すなわちストアレジハウスを設けることが考えられる。この場合の規模は、滞り貨物量、取扱貨物の品種、荷姿等を十分調査して決定する。位置は、貨物積卸場と一体となって有機的に使用できるとともに、小運搬具との荷役作業も容易ように考慮せねばならない。現在本格的なストアレジハウスは、梅田駅新3号低床積卸場(上家内車扱)に設けられている。その規模は、次の算式によった。



ストアレジハウス収容量 = 最大滞り貨量 = 貨物積卸場滞り貨量
 最大滞り貨量 = 1日平均到着貨物量 × 繁忙係数 × 滞り率

繁忙係数 = 1.2

滞り率 = 1.0

貨物積卸場滞り貨量 = 荷役作業に支障のない滞り貨量 = 1日平均到着貨物量の20%

(好田 豊・望月英策)